平成 26 年 5 月

「九州農業の６次化展開」について

～第 2 回「九州の未来力 2030」を踏まえた一言提言～

＜谷口博文＞

● 新しいものを拒まない風土が地域の農業を強くする

農業は昔からの膨大な知恵のかたまりですが、従来のやり方や仕組みを守ろうとすると逆に、農業を守れない。消費者、製造業、サービス業、外国人など、異質なものとのふれあいが、自らを強くします。

新しいものを受け入れることのできる若い人財こそ、その中核を担う農業の宝だと思います。

● 農業の６次化展開のカギと産業としての農業の課題

農業の６次化展開により産業としての農業の発展性は高まっています。農業が経営的にもうまくいくためには、資金、マーケティング、担い手としての若者たちを引き付ける魅力的な展開などがカギになると思われますが、それと同時に、農地供給の問題も課題と考えます。農地中間管理機構による農地集約化の取り組みにより、農地の高度活用や規模の経済が発揮できる、収益性のある自立的な農業の確立につながることを期待しています。

＜益村眞知子＞

＜津上賢治＞

● 農業の２次・３次産業化を活用した農産品輸出拡大の可能性

農業の２次・３次産業化による㈱グラノ２４Ｋの成功例を農産品の輸出面でも活用するーすなわち、農産品の生産のみならず、加工、流通、販売・サービス面で様々な工夫をして海外での新規需要開拓に繋げるーことはできないか、この面で、食品メーカーや商社にも更なるビジネスチャンスがあり得るのではと思いました。

● 都市部で農業の充実が感じられる仕掛け

農業の発展のために、その充実が都市部で感じられる仕掛けも必要だと感じます。例えば安心な農産物のマルシェやそれを食べれるカフェが、日常的に都心の公共空間に立ち現れ、広く市民の目に触れ都心生活の一部になる、といった農村と都心の相互をつなぐ仕組みも大切だと思います。

＜松岡恭子＞

＜溝渕寛明＞

● 6次化展開は農業の経営力強化に資する

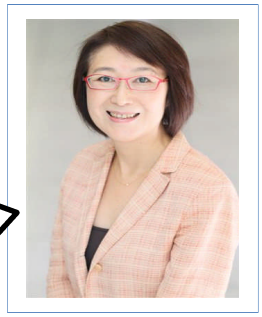
農業の6次化展開とは、マーケティング戦略、課題解決のための提案力（例：規格外産品の有効活用による付加価値ＵＰ）など、農業の経営力の強化に資するもの。

アグリプレナー（農業企業家）によるこうした動きに、九州農業の未来への期待は膨らむ。

２次、３次産業側からの視点だけでなく、農家、地域を巻き込んだ取り組みで、三方一両得の実現を図る取り組みに協力できればと思う。

● おいしい野菜を食べたい都市生活者におばあちゃんの野菜を！

地方に行くと産直が楽しみです。都市に生活していると、新鮮でおいしい野菜を食べられる地方がうらやましい。「ヨーロッパのマルシェのようなものが天神であったら」と思うのですが、現在、農業の担い手のほとんどは高齢者。持ってくるのに大変なのではないかと推察します。地方の新鮮野菜とおばちゃんをいっぺんに都市に運んできて、お洒落なマルシェをつくる「運ぶ」と「デザイン」をいっぺんにできるような仕組みができないかな、と思います。



＜村山由香里＞

＜浦山　茂＞

● 九州6次化応援ファンドの活用で地域農業の再生に繋げたい

「日本経済再生に向けた緊急経済対策」の中に、6次産業化促進、農林漁業成長化ファンドの拡充が明記されている。現実の農業の実態は、農業就業者の約6割が65歳以上、耕作放棄地の拡大、後継者不足等々厳しい状況に変わりがないが、農業の産業化への転換不可避に向けた取組みをどう具体的に推進するのか、ファンド対象先の合弁企業体をサポート・支援しながら雇用の創出等、地域活性化に向けてお役に立ちたい。

● 金融機関による農業支援は非常に大切

法人の農業参入や６次化展開により、農業の規模拡大・高度化は着実に進んでいくと思います。産業である以上は農業も資金力が必要であり、金融機関による農業支援は非常に大切です。北部九州は金融機関による農業支援への取り組みが比較的進んでいる地域ですが、金融機関にはグラノ２４Ｋのような農業ベンチャーの発掘と支援をこれからも是非お願いしたいと思います。

＜高木　隆＞

＜鈴木恵一＞

● 農業に対する知恵の共有化

農業に各方面からこれだけの注目が集まる機会はチャンス。九州が地域一丸となって農業に対する知恵を共有化するオープンイノベーションの仕組みを構築することが必要ではないか。